様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｈ０３６０２

研究課題名（和文）H. ソーントンと古典派貨幣理論：その可能性と現代への影響の総合的研究

研究課題名（英文）Henry Thornton and Classical Monetary Theory: New Study in their Possibilities and in their Influence on Contemporary Monetary Economics

研究代表者
佐藤　有史（Sato, Yuji）

立教大学・経済学部・教授

研究者番号：６０２８８２５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,000,000円

研究成果の概要（和文）：　古典派経済学とその金融理論については、日本の諸研究が世界の先端研究と水準を競い合って発展させてきた領域である。そのことを確認し、さらに国際協力のもとで当該領域の研究をいっそう発展させようという意図から、本研究はスタートしたのである。2019年に始まった新型コロナ感染の世界的蔓延は、本研究の意図せざる中断をもたらしたが、国内外の研究協力者たちとの連携の下、可能な限りでの成果をもたらしたと言える。
　本科研費によって助成された国際ワークショップは、平成28～30年度、新型コロナの世界的蔓延による3年の中断を経て令和4年度と計4回開催され、それ以外にも研究代表者・分担者による個別論文等が出版された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　アダム・スミス、デイヴィッド・リカードウならびにヘンリー・ソーントン、さらには中央銀行論の重要な形成者ウォルター・バジョットといった古典派金融理論の形成者たちは、今日の世界の研究状況の中でさらにその重要性を増しており、本研究プロジェクトによってこの領域における日本の研究水準が世界の最先端のそれに十分伍していることを確認できた。
　そして、本科研費による国際ワークショップにおいて再確認されたのは、当該領域における研究の国際協力の重要性であった。そうしたことを本研究プロジェクトが部分的に実現してきた意義は大きいと考えられるし、またこうした国際協力が当該領域において継続されるべき意義も再確認された。

研究成果の概要（英文）：　Classical political economy and its financial theory is an area in which Japanese research has developed in competition with the world's leading research. The global outbreak of the Covid-19 disease that began in 2019 brought about an unintended interruption to our research project, but in cooperation with national and international collaborators, we have been able to achieve the best possible results.
　The international workshop funded by this Grant-in-Aid was held four times, from 2009 to 2023, after a three-year interruption due to the global spread of the Covid-19, and individual papers by the principal investigators and co-principal investigators were also published.

研究分野：経済学史

キーワード：古典派経済学　アダム・スミス　デイヴィッド・リカードウ　ヘンリー・ソーントン　ウォルター・バジョット　金融理論の発展

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）研究開始における研究状況について

研究代表者（佐藤）は、本研究の開始直前に *Ricardo on Money and Finance: A Bicentenary Reappraisal*, ed. Y. Sato and S. Takenaga, London: Routledge, 2013.を出版した。その際、強調したのは、古典派貨幣理論の再検討が世界のいたるところでなされていること、そして日本においても私たちを中心として核となる研究プロジェクトが進行中であること、以上である。幸い私たちの呼びかけは、世界の研究者たちに確実に届き、予算等の研究準備が整えば、立教大学という立地と施設とに恵まれた場所を拠点に、さらに大きく展開できる見込みとなったのである。

（２）日本および欧米との共同研究の必要性

古典派経済学および古典派貨幣理論に関わる諸研究は、特定の経済学派に偏ることのない、いわばアプローチ横断型の共同作業が可能である。なぜなら、およそ貨幣理論の原点に立ち戻るにあたって、デイヴィッド・ヒューム、アダム・スミス、ヘンリー・ソーントン、デイヴィッド・リカードウ、銀行学派、通貨学派、ウォルター・バジョットといった重要人物たちは等閑視されるはずがないからである。この点で、日本の金融理論研究者と、欧米の研究者とでは、古典的諸著作に対する取り組み方に違いがあるような感を強く持つ。現代における古典派貨幣理論の研究の重要性を明確にするには、欧米の研究者を交えた国際的なワークショップ、論集の出版を軸に据えることが、より生産的であるとの結論を得ていた。

（３）研究代表者（佐藤）の立ち位置

幸いなことに、上記書に収められた研究代表者の論文等は、海外において比較的好評を得ていた。また、日本においては、研究代表者（佐藤）の古典派貨幣理論に関わる諸研究は、この分野における主導的研究の一端をなしてきたと言える。本科研費による補助のもとで、5 年にわたる国際協力のもとでの研究プロジェクトを推進するうえで十分な指導力を発揮できることが期待された。

２．研究の目的

本研究の目的は以下の計画に従って、デイヴィッド・ヒュームに始まり、約 250 年間論争されてきた古典派貨幣理論を再検討し、その可能性を示すことにあった。(1)アダム・スミスおよびデイヴィッド・リカードウによる古典派経済学体系における通貨・信用・銀行の理論の位置づけを確定する。(2)古典派貨幣理論の初期の体系的理論家 H.ソーントンの金融理論を再検討しその現代における意義を確定する。(3)古典派貨幣理論をめぐる諸論争が、現代金融思想（ケインズ派 vs.マネタリスト、オーストリア学派経由のフリーバンキング論・景気循環論、マルクス金融思想等を含む）に与えた影響を分析する。(4)ケインズの金融思想の形成と古典派金融思想との間に見られる連続性と非連続性を明らかにする。以上を踏まえ、(5) 古典派貨幣理論の意義は普遍的であり、その影響は現代にまで及んでいることを明らかにする。

３．研究の方法

（１）立教大学における国際ワークショップの開催

本科研費補助金の助成を受けている間、毎年 3 月中旬に、立教大学にて原則２日間の国際ワークショップを開催することとした。研究代表者・分担者ならびに日本の研究協力者による５～６本の英語での研究発表、４名の海外研究協力者招へいによる英語での研究発表を基本とした。

（２）リカードウ研究会による研究報告

研究代表者・分担者ならびに日本の研究協力者については、原則年２回（８月および１２月）あるリカードウ定例会での研究報告をもって、３月の国際ワークショップの発表準備にあてた。なお、リカードウ研究会定例会は立教大学にて開催された。

（３）その他の準備作業と情報交換、個別の出版物

その他、学会活動・発表を通じての、あるいは適宜研究会を開催しての、国際ワークショップに向けての準備作業を行なった。また、準備作業や国際ワークショップでの成果を個別に論文等として出版した。

４．研究成果

（１）国際ワークショップ（於・立教大学）において発表・提出された論文

<u>平成 28 年度</u>

Yuji SATO (Rikkyo University): ‘The Miraculous 200 years: English Classical Economics 1623-1823.’

Atsushi NAITO (Ohtsuki City College): ‘Inflation Targeting Policy and the Theory of Natural Interest Rate.’

Rebeca Gomès BETANCOURT (Universtité Lumière Lyon 2): ‘The Ideal Currency of the Future: David Ricardo, Alexander Martin Lindsay, J. M. Keynes and E. W. Kemmerer on India Gold Exchange Standard.’

Shigeki TOMO (Formerly Professor at Kyoto Sangyo University): ‘The Hayek Edition of Thornton’s Paper Credit – Its Place in the History of Economic Thought.’

Kazunori YAMAKURA (Nihon University): ‘Henry Thornton’s Thoughts on Monetary Policy 1802-1811.’

Susumu TAKENAGA (Daito Bunka University): ‘Ricardo’s Initial Plan for the Monetary Reform: How Was It Conceived, and What Were Its Consequences?’

Matthew SMITH (University of Sydney): ‘Thomas Tooke's Contribution to Classical Monetary Economics: A Contemporary Perspective.’

平成29年度

Shigeki TOMO (Independent Scholar, Kyoto): ‘Steuart’s Naïve Theory of Money and Credit: A Macroeconomic Perspective.’

Matthew SMITH (University of Sydney): ‘Thomas Tooke's Banking School Monetary Thought.’

Nicholas A. Curott (Ball State University, Illinoi) ‘On Adam Smith’s Theory of Money and Banking.’

Yuji SATO (Rikkyo University, Tokyo): ‘On the Smithian Theory of Substitution of Paper for Gold: Some Comments on Professor Curott.’

Ghislain DELEPLACE (University Paris 8, Paris): ‘Communications.’

Matthew SMITH (University of Sydney, Sydney): ‘Some Comments on Professor Deleplace's 'Ricardo on Money: Not a Quantity Theorist'.’

Yuji SATO (Rikkyo University, Tokyo) ‘Some Comments on Deleplace.’

平成30年度

Yuji SATO (Rikkyo University): ‘On Some Premises of Classical Monetary Theory.’

Ryo SADAMORI (Keio University): ‘Interest Rate in Spain in Montesquieu and Hume: the Concept of “Money”and the vision of the World Commerce.’

Rebeca GOMEZ BETANCOURT (Université Lumière Lyon-2) : ‘James Steuart: A Modern Approach to the Liquidity and Solvency of Public Debt.’

Susumu TAKENAGA (Daito Bunka University): ‘*Ricardo on Money* (Ghislain Deleplace, 2017): Discussions with the Author.’

Matthew SMITH (University of Sydney): ‘A Reconsideration of the Role of Demand in Malthus’s Theory of Accumulation.’

Nobuhiko NAKAZAWA (Kansai University): ‘"As One of the Swinish Multitude": A Note on Malthus's Casual Reference to Burke's *Reflections*.’

Christophe DEPOORTÈRE (Université de la Réunion) : ‘Ricardo’s side of the Malthus Papers in the Collection of Kanto Gakuen University.’

Atsushi NAITO (Ohtsuki City College): ‘Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism.’

Aldo BARBA (University of Naples Federico II): ‘Ricardo Against the Landlords: on His Plan for Paying off the National Debt by a Tax on Property.’

令和1年度

世界的なコロナ禍のため、国際ワークショップは開催できず。

令和2年度

世界的なコロナ禍のため、国際ワークショップは開催できず。

令和3年度

世界的なコロナ禍のため、国際ワークショップは開催できず。

令和4年度

令和5年1月より、世界的なコロナ感染状況の改善が見られたため、3月に部分的に国際ワークショップを再開

Naoyuki WAKAMATSU (Chuo University, Tokyo, Japan): ‘David Ricardo and the Embryo of the Dynamic Analysis of Tax.’

Taro HISAMATSU (Doshisha University, Kyoto, Japan) and Nobuhiko Nakazawa (Kansai University, Osaka, Japan): ‘T. R. Malthus’s Investigation of the Cause of the *Present High Price of Provisions* (1800) and Amartya Kumar Sen.'

Matthew SMITH (University of Sydney, Sydney, Australia): 'Technological Progress in the Theory of Accumulation of the Classical Economists and Marx.’

Yuji SATO (Rikkyo University, Tokyo, Japan): ‘Rediscovering William Petty: The Ricardians and the Birth of the History of Political Economy.’

（２）そのほか、別途報告されるように、研究代表者および研究分担者は、個別に論文等を出版した。また、海外研究協力者たちも、本科研費による国際ワークショップの成果を論文等で出版している。

（３）ただし（１）に記したように、本科研費による研究プロジェクトが進行しつつあるさなかに、世界はまさに未曽有の新型コロナ感染に見舞われ、本科研費による研究プロジェクトも当初の目的・方法をそのまま遵守するわけにはいかなくなった。国際交流は新型コロナ感染が蔓延した間は途絶え、国内研究者同士での対面での意思疎通もできなくなり、作業ならびに研究対象との関わりは個人作業に委ねられざるを得なくなった。令和 4 年度の国際ワークショップにおける限られた準備期間における限られた参加者による発表は、そうした研究状況を反映したものとなっており、専門特化した古典派の金融理論の探求というよりは、より大きな古典派経済学のとらえ直しからのそうした専門領域への再接近の道筋をつけるというものとなったのは、十分に理解できるところである。しかしながら、その際に参加者一堂によって改めて確認されたのは、当該領域における研究の国際協力の重要性であった。今後の本研究プロジェクトの継続・発展は、こうした経験を踏まえ、研究におけるより深化した国際協力の在り方を実現していきたいと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 佐藤有史	４．巻 76巻4号
２．論文標題 19世紀におけるウィリアム・ペティの「再発見」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 立教経済学研究	６．最初と最後の頁 59-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14992/00022601	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 内藤敦之	４．巻 59巻1号
２．論文標題 コロナ禍の日本経済 ： ポスト・ケインジアンの視点からのマクロ経済分析	５．発行年 2022年
３．雑誌名 季刊経済理論	６．最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 内藤敦之	４．巻 54号
２．論文標題 『生政治の誕生』におけるネオ・リベラリズムの起源	５．発行年 2023年
３．雑誌名 大月短大論集	６．最初と最後の頁 23-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 久松太郎	４．巻 74巻1号
２．論文標題 比較優位と貿易利益	５．発行年 2022年
３．雑誌名 同志社商学	６．最初と最後の頁 71-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029052	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 久松太郎	4．巻 74巻2号
2．論文標題 「ぬれぎぬ問題」再考	5．発行年 2022年
3．雑誌名 同志社商学	6．最初と最後の頁 561-595
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029312	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Taro Hisamatsu	4．巻 vol. 33, no. 3
2．論文標題 Ricardo and the Construction of the 'Ricardian' Trade Model of Comparative Advantage	5．発行年 2022年
3．雑誌名 History of Economic Ideas	6．最初と最後の頁 11-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19272/202206103001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Izumo Masashi、Sato Yuji、Takenaga Susumu	4．巻 -
2．論文標題 How Ricardo Came to Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 M.C. Marcuzzo et al. (eds.), New Perspective on Political Economy and Its History. Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan.	6．最初と最後の頁 217～239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-42925-6_11	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 久松太郎	4．巻 73巻4号
2．論文標題 トレンズ不況論再考	5．発行年 2022年
3．雑誌名 同志社商学	6．最初と最後の頁 45～65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Rogerio Arthmar; Taro Hisamatsu	4．巻 -
2．論文標題 Robert Torrens on Say's Law and the General Glut	5．発行年 2021年
3．雑誌名 History of Economic Thought and Policy	6．最初と最後の頁 83～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 久松太郎	4．巻 73巻3号
2．論文標題 ロバート・トレンズと商品による商品の生産―有効需要・安逸愛好・均斉成長―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 同志社商学	6．最初と最後の頁 67～88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山倉和紀	4．巻 89巻第4号
2．論文標題 アイルランド為替論争と小額鋳貨危機	5．発行年 2020年
3．雑誌名 商学集志	6．最初と最後の頁 1～20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 内藤敦之	4．巻 51号
2．論文標題 フーコーのネオ・リベラリズム分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大月短大論集	6．最初と最後の頁 97～129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Atsushi Naito	4．巻 第2巻
2．論文標題 Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Review of Keynesian Studies	6．最初と最後の頁 122～147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34490/revkeystud.2.0_122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 内藤敦之	4．巻 60巻1号
2．論文標題 「J. Halevi, G. C. Harcourt, P. Kriesler, and J. W. Nevile, Post-Keynesian Essays from Down Under: Theory and Policy in an Historical Context (4 vols., 2016) をめぐって―ポスト・ケインジアンにおけ る達成:カレツキ，オーストラリア，理論と政策を軸として―」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『経済学史研究』	6．最初と最後の頁 141-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山倉和紀	4．巻 88巻4号
2．論文標題 「ローダーデールとアイルランド為替論争 ―『アラーミング』（1805年）を中心に―」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『商学集志』	6．最初と最後の頁 21-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 内藤敦之	4．巻 第49号
2．論文標題 ミンスキーと流動性選好	5．発行年 2018年
3．雑誌名 大月短大論集	6．最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 リカードウと経済学史の誕生
３．学会等名 経済学史学会第87回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 Rediscovering William Petty: The Ricardians and the Birth of the History of Political Economy
３．学会等名 International Workshop on Classical Political Economy at Rikkyo University 2023
４．発表年 2023年

１．発表者名 Matthew Smith
２．発表標題 Technological Progress in the Theory of Accumulation of the Classical Economists and Marx
３．学会等名 International Workshop on Classical Political Economy at Rikkyo University 2023
４．発表年 2023年

１．発表者名 久松太郎・中澤信彦
２．発表標題 T. R. Malthus’s Investigation of the Cause of the Present High Price of Provisions (1800) and Amartya Kumar Sen.
３．学会等名 International Workshop on Classical Political Economy at Rikkyo University 2023
４．発表年 2023年

１．発表者名 若松直幸
２．発表標題 David Ricardo and the Embryo of the Dynamic Analysis of Tax
３．学会等名 International Workshop on Classical Political Economy at Rikkyo University 2023
４．発表年 2023年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 現代貨幣理論の展開
３．学会等名 信用理論研究学会春季大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 古典派貨幣理論の前提
３．学会等名 第83回経済学史学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 表券主義の貨幣理論－マクロ経済システムと政策的論点－
３．学会等名 第9回ケインズ学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 貨幣の名目性：表券主義の貨幣理論
３．学会等名 第24回進化経済学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 コロナ禍の日本経済－ポスト・ケインジアンの視点からのマクロ経済分析
３．学会等名 経済理論学会第69回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 「貨幣の名目性:表券主義の貨幣理論」
３．学会等名 第8回ケインズ学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 On Some Premises of Classical Monetary Theory
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 内藤敦之
２．発表標題 Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 定森亮
２．発表標題 Interest Rate in Spain in Montesquieu and Hume: the Concept of “Money”and the vision of the World Commerce
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Rebeca GOMEZ BETANCOURT
２．発表標題 James Steuart: A Modern Approach to the Liquidity and Solvency of Public Debt
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹永進
２．発表標題 Ricardo on Money (Ghislain Deleplace, 2017): Discussions with the Author
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Matthew SMITH
２．発表標題 A Reconsideration of the Role of Demand in Malthus’s Theory of Accumulation
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 中澤信彦
２．発表標題 "As One of the Swinish Multitude": A Note on Malthus's Casual Reference to Burke's Reflections
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Christophe DEPOORTERE
２．発表標題 Ricardo’s side of the Malthus Papers in the Collection of Kanto Gakuen University
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 Aldo BARBA
２．発表標題 Ricardo Against the Landlords: on His Plan for Paying off the National Debt by a Tax on Property
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 リカードウ『経済学および課税の原理』出版200周年
３．学会等名 経済学史学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 リカードウのスミス批判：擁護
３．学会等名 経済学史学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 久松太郎・若松直幸
２．発表標題 リカードウの課税の原理
３．学会等名 経済学史学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 On the Smithian Theory of the Substitution of Paper for Gold
３．学会等名 International Woekshop on Classical Monetary Theory 2018 at Rikkyo University
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤有史
２．発表標題 On Professor Deleplace's Ricardo on Money 2017
３．学会等名 International Workshop on Classical Monetary Theory 2018 at Rikkyo University
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yuji SATO
２．発表標題 On the Emergence of the ‘Core’ of Classical Economics: Natural Price and Market Price from W. Petty to D. Ricardo
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Rebeca Gomes BETANCOURT
２．発表標題 David Ricardo, Alexander M. Lindsay and J. M. Keynes on India Gold Exchange Standard
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Matthew SMITH
２．発表標題 Thomas Tooke’s Contribution to Classical Monetary Economics: A Contemporary Perspective
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Atsushi NAITO
２．発表標題 Inflation Targeting Policy and the Theory of Natural Interest Rate
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Shigeki TOMO
２．発表標題 The Hayek Edition of Thornton’s Paper Credit: Its Place in the History of Economic Thought
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kazunori YAMAKURA
２．発表標題 Henry Thornton’s Thoughts on Monetary Policy 1802-1811
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

１．発表者名 Susum TAKENAGA
２．発表標題 Ricardo’s Initial Plan for the Monetary Reform: How Was It Conceived, and What Were Its Consequences?
３．学会等名 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 佐藤毅・山倉和紀	４．発行年 2017年
２．出版社 白桃書房	５．総ページ数 232
３．書名 『金融と経済―理論・思想・現代的課題―』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

リカードウ研究会（The Ricardo Society）ホームページ
https://www.ricardosociety.com/
リカードウ研究会（The Ricardo Society）
https://www.ricardosociety.com/
リカードウ研究会（The Ricardo Society）
https://www.ricardosociety.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山倉　和紀 (Yamakura Kazunori) (10267007)	日本大学・商学部・教授 (32665)	
研究分担者	内藤　敦之 (Naito Atsushi) (40461868)	大月短期大学・経済科・教授（移行） (43502)	
研究分担者	久松　太郎 (Hisamatsu Taro) (60550986)	同志社大学・商学部・准教授 (34310)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡会　勝義 (Watarai Katsuyoshi) (80097196)	早稲田大学・政治経済学術院・名誉教授 (32689)	削除：平成29年2月22日

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計4件

国際研究集会 International Workshop on Classical Political Economy at Rikkyo University 2023	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 International Workshop on Classical Monetary Theory at Rikkyo University 2019	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2018 at Rikkyo University	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory 2017	開催年 2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関